

2026年7月31日掲載

物流ニッポン

適正運賃収受進める

第一貨物 荷主2万社へ要請

第一貨物（越智史朗社長、山形市）は適正運賃・料金や燃料サーチャージの収受を普及に努め、特別貸付事業を移した総合物流企業への取り組みを推進する。2万社による発荷主社に対し、継続的な値上げ要請を展開。物流センター運営が特権以外の事業では、東北エリアを中心に需要を取り込む。三菱倉庫出身で、4月に就任した越智社長は、地方の物流維持に危機感を示し、「当社が受け皿となり、地方の物流を担う必要がある」と話す。（十原太郎）

地方の物流担う受け皿に

荷動きについて、越智氏「品薄感による駆け込み需要 横ばいか下回る状態が続くは「短期的にみると4、5月が出た」と説明。前年同月、比5%ほどプラスで推移し、その上で「国内物流は、影響で、石油関連商品の」な半面、8月以降は反動で、特権品貨物を中心に荷物は、

増える状況ではない」と指摘。人件費などのコストが上がる状況も継続しているため、適正運賃・料金と燃料サーチャージの収受に注力する。2万社の発荷主に對し、毎年数%の値上げを求め、これを徹底。燃料サーチャージは現状の収受率が9割で、前年から1割改善しているものの、100%に向けて継続的に訴えていく。特権品以外の事業も強化

する。物流センター運営と、いったロジスティクス事業では、東北エリアの取り扱いを伸ばす。幹線輸送で稼働させていたトラックを活用するなど、貸し切り輸送の拡充も図る。

「総合物流企業として裾野を広げていく。ロジ事業では都市部が中心だったが、東北エリアを中心に工場から都市部向けの需要を取り込み、輸送にもつなげる」（越智社長）



「社員の誠実さという強みを生かす」と越智社長

地方の物流維持に危機感を持つ。「地方の運送会社は値上げできない」と人を雇えず、車両や施設の更新もできない。特に東北地方は人口減少が進んでいる。このエリアのB to B（企業間）物流を責任を持つ担

方の安全・安心にも貢献する」と強調する。三菱倉庫出身で、第一貨物三菱倉庫を結んだ後の2023年11月に取締役に就任した。三菱倉庫もそうだが、誠実な会社だ。社員の誠実さという強みを生かす。物流は今後一層重要になるので、その分やがて強く感じられる時代になる。1人で提供していく。

倉庫もそうだが、誠実な会社だ。社員の誠実さという強みを生かす。物流は今後一層重要になるので、その分やがて強く感じられる時代になる。1人で提供していく。